

2025 年度 城西国際大学自己点検・評価 外部評価委員会 総評

外部評価委員会は、自己点検・評価報告書および当日の意見交換を踏まえ、全体として貴学が自己点検・評価を体系的かつ継続的に実施し、大学運営・教育研究活動の改善に努めていることを評価する。各基準について詳細な点検が行われており、課題の把握と改善に向けた姿勢も確認できた。また、内部質保証システムの運用や情報公開についても一定の水準に達しており、説明責任を果たしていると認められる。

一方で、報告書全体を通じて、達成できた事項の記載は充実しているものの、達成に至らなかった事項について、その原因分析や改善方策の記述が十分ではないとの意見もあった。今後は「できなかったこと」を積極的に可視化し、その要因や対応策を明確に示すことで、より実効性の高い PDCA サイクルの構築につながることが期待される。

また、貴学は千葉県内では数少ない総合大学であり、加えて国際性という特色を有している。この強みを十分に発信し切れているとは言い難く、社会や受験生、高校関係者から見て貴学ならではの価値が必ずしも明確に伝わっていないとの指摘があった。少子化が進行し大学間競争が激化する中においては、地域性や国際性、専門職養成機能などの強みを明確に打ち出し、教育研究活動の成果とともに積極的に発信していく必要がある。

各基準に対する期待

・基準 1 理念・目的

建学の精神および教育理念に基づいた教育研究活動は適切に展開されていると評価できる。今後は、理念・目的をより分かりやすく学内外に示し、ホームページ等において利用者が容易に確認できる形で整理・公表することを期待する。また、教育のみならず研究機能や研究成果に関する視点も明確化し、貴学の存在意義をより広く発信されたい。

・基準 2 内部質保証

自己点検・評価体制は着実に運用されている。今後は学生や卒業生、地域社会、外部有識者等から得られる意見を一層活用し、評価結果を具体的な改善へ結び付ける仕組みの充実を期待する。また、内部質保証を教育現場だけの課題とせず、大学全体の理念や将来像の実現に向けて事務部門が主体的な役割を担うことも重要である。

・基準3 教育研究組織

学部学科再編や新たな組織整備に着手している点は評価できる。今後は組織改編そのものを目的とするのではなく、その効果を継続的に検証し、教育研究活動や学生募集にどのような成果をもたらしたかを分析しながら改善につなげていくことを期待する。

・基準4 教育・学習

学位授与方針や教育課程編成方針は整備されているが、それらと教育内容・教育方法との関連性について、学生にとって十分に可視化されているとはいえない。カリキュラムマップやカリキュラムツリーを活用し、学生が自らの学修成果や到達度を確認できる仕組みの構築を期待する。また、地域社会や産業界のニーズを踏まえた資格取得支援や特色ある人材養成を進め、貴学ならではの教育の強みを明確化されたい。

・基準5 学生の受け入れ

学生募集や入学者選抜は適切に実施されている。今後は卒業後の進路実績や資格取得状況などの情報を積極的に発信し、高校との継続的な関係構築を進めることが期待される。また、少子化の影響を前提とした受け身の対応ではなく、貴学の特色を明確に打ち出した広報戦略の展開を望む。

・基準6 教員・教員組織

教員の資質向上に向けた取組が進められていることは評価できる。今後は研究力向上のみならず、教育者としての資質やコンプライアンス意識の向上に関する研修を充実させるとともに、法令改正や社会的要請に対応した継続的な研修体制の構築を期待する。

・基準7 学生支援

学生生活や進路支援は適切に実施されている。今後は休学者の復学支援や多様な学生ニーズへの対応をさらに充実させるとともに、姉妹校との連携を含めた柔軟な学修継続支援の仕組みづくりを期待する。

・基準8 教育研究等環境

施設設備や研究倫理体制は概ね適切に整備されている。特に生成AIの普及により、剽窃防止や学修の質保証が新たな課題となっていることから、適切な利用ルールや教育プログラムを整備し、学生の主体的な学びを促進する環境整備を期待する。

・基準 9 社会連携・社会貢献

地域社会との連携は継続して実施されているが、その成果の発信や可視化には改善の余地がある。社会貢献活動や委員就任実績、共同研究、ボランティア活動等を体系的に公表するとともに、全学的なボランティア人材育成を推進し、地域との交流をさらに活性化されたい。

・基準 10 大学運営・財務

大学運営および財務管理は適切に行われている。今後も透明性の高い運営を継続するとともに、大学を支える職員の育成と組織力向上を図り、将来を見据えた安定的な組織運営を推進することを期待する。

改善に向けた提言

1. 未達成事項の原因分析と改善計画の明示

- 各基準において達成できなかった事項について、要因分析および改善スケジュールを明記し、PDCA サイクルの実効性を高めること。

2. 大学の特色・強みの再定義と発信強化

- 「総合大学」「国際性」「地域性」を貴学のブランドとして整理し、受験生や地域社会に向けて積極的に発信すること。

3. 学修成果の可視化

- カリキュラムマップ、ポートフォリオ、デジタルバッジ等を活用し、学生自身が学修成果を確認・発信できる仕組みをより一層整備すること。

4. 地域との関係強化

- 高校、自治体、企業との連携を強化し、地域課題解決や人材育成において貴学が中心的役割を果たせる体制を構築すること。

5. 情報発信手段の多様化

- ホームページだけでなく SNS、動画配信、メディア連携等を活用し、教育研究活動や学生の活躍を継続的に発信すること。

6. 生成 AI 活用に関する教育・ガイドライン整備

- AI 利用の適切なルールを整備し、主体的な学びと学術的誠実性を両立させる教育を推進すること。

以上より、貴学は自己点検・評価体制を着実に運用していることが認められる。一方で、社会環境の変化や少子化の進展を踏まえれば、大学としての特色をより明確化し、その成果や価値を学内外へ積極的に発信していくことが求められる。外部評価委員会としては、今後も継続的な改善と発展により、貴学の教育研究活動が一層充実することを期待する。

2026 年 8 月

外部評価委員会

高橋邦夫

(千葉学芸高等学校 校長)

青柳吉彦

(千葉テレビ放送株式会社 業務局長兼業務局営業部長)

内山昌弘

(元父母後援会会長・城西国際大学卒業生)